美術科教育学会通信 No.54

２００４年１１月１日発行

通信事務　代表：〒 772-8502　鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地
鳴門教育大学芸術系（美術）講座　橋本泰幸研究室／ Tel. & Fax. 088-687-6481 ／ E-mail：hasimoto@naruto-u.ac.jp
企画・編集：山木朝彦／ Tel. & Fax. 088-687-6485 ／ E-mail：yamaki@naruto-u.ac.jp
編集レイアウト：山田芳明／ Tel. & Fax. 088-687-6636 ／ E-mail：yyamada@naruto-u.ac.jp
企画協力：山田一美（東京学芸大学）　WEB 版：谷口幹也（鳴門教育大学）

事務局移転のお知らせ　会費の納入先が変わりました

美術科教育学会代表理事　橋本泰幸

今年は幾つもの大きな台風が列島を襲い，また地震の発生と，多くの被害が出ました。会員の皆様が怪我などをされていないことを祈ります。

さて，会員の皆様には，すでにお知らせいたしましたが，財団法人･日本学会事務センター（以下，事務センターと略す）が平成 16 年 8 月 17 日,破産いたしました。本学会も学会業務を事務センターに委託してまいりましたが，破産による被害を被りました。この件の詳細につきましては，宮坂元裕氏の報告（下記）と，理事会についての報告（本通信掲載）をお読み下さい。

事務センターへの依託が不可能になったために，この度，学会事務の業務を鳴門教育大学に移し行います。入会手続きをはじめその他の問い合わせは，下記の事務局まで電話・FAX・E メールでご連絡ください。特に，本年度，まだ会費をお納めでない会員の方は，至急下記の番号で入金くださるようにお願いします。

郵便貯金 口座記号番号　１６２００−１１１２７９１１
加入者名　美術科教育学会

学会事務局　772-8502　徳島県鳴門市鳴門町高島字中島７４８
鳴門教育大学芸術系（美術）教育講座　橋本泰幸研究室
担当者名：山木朝彦（学会通信）Tel/Fax 088-687-6485 E-mail yamaki@naruto-u.ac.jp
谷口幹也（入会手続き・会費関係）Tel/Fax 088-687-6494
E-mail t.mikiya@naruto-u.ac.jp

財団法人日本学会事務センター破産と美術科教育学会との関係に関する報告

宮坂元裕（横浜国立大学）

美術科教育学会は事務の一部を財団法人日本学会事務センターに委嘱していました。平成 16 年 7 月 3 日読売新聞朝刊に「財団預かり金 16 億円流用」という記事が掲載されました。当時美術科教育学会は 3,545,353 円を預けていました。美術科教育学会は 7 月 26 日緊急の総務会を開催し全額引き揚げを決定しました。その後直ちに 3,000,000 円は返還されましたが，残りの 545,353 円は残されました。理由は学会誌の発送など上記事務センターに必要とする金額が残されていないと美術科教育学会の事務に支障をきたすことと倒産するか不明であったことによります。ところが，日本学会事務センターは 8 月 17 日破産してしまいました。その後 9 月 7 日美術科教育学会の会員データの返却がありました。9 月 27 日には会計最終報告と帳簿類受け取りを行いました。その結果，7 月 27 日より 8 月 17 日までの事務費を差し引いた 272,353 円が美術科教育学会が被った被害総額となりました。

10 月 5 日破産債権届けを事件番号平成 16 年（フ）第 15950 号「債権の内容及び原因，預け金」として東京地方裁判所に提出しました。なお破産後に振り込まれた会費 80,000 円は無事回収することができました。

平成１６年度　第一回美術科教育学会理事会（旧役員会）についての報告

山木　朝彦（鳴門教育大学）

さる８月 27 日に，美術科教育学会の理事会がぺんてるビル会議室にて開催され，理事 17 名と監査２名が出席し，欠席した理事全員の委任状を確認の上，開会いたしました。増田金吾理事が司会進行を務め，開会の挨拶を橋本泰幸代表理事が行いました。議題と提案，これに関する議論の内容の要点と議決の可否は次のとおりです。
（役職名は各項目の初出のみ。敬称は略す。）

1. 新体制に関する報告及び検討事項

(1) 学会規約の改正について

・懸案であった学会規約の改正について，橋本泰幸代表理事と橋本が委嘱した三名の副代表（増田金吾，福本謹一，永守基樹）から成る四名が，現行の学会規約改定のための検討を行っていたが，その検討結果を踏まえ，福本副代表が改正の趣旨を説明し，新たな改正案の概要を報告した。以下はその要旨と審議結果である。

・学会運営のための企画・調整を行う総務部，研究部，事業部の設立が提案され承認された。

・関連して，橋本の指名により総務部を統括する者として増田副代表が，研究部を統括する者として永守副代表が，事業部を統括する者として福本副代表が担当するとの原案が出され，理事会はこの原案どおり３名の選出について承認した。

・福本副代表から学会規約そのものの文案の変更点についての詳しい説明がなされ，基本的事項について承認された。

・学会規約改定による「事務局」概念の変更，「理事会」（旧役員会）や「運営評議会」（旧総務会）など組織名称の変更が生じることについて，福本から提案があり承認された。

・改定案の取り扱いに関する今後の見通しについて質問があり，話し合いの結果，各項目の修正や改善について各理事が検討し，特に意見がある場合に福本に知らせることと，これを踏まえたうえで，次回の理事会に橋本代表理事の責任において改定案の決定稿を示すことが承認された。

(2) 理事の分掌について

橋本から各理事が学会運営にあたる分掌の必要性について説明があり，理事の役割について具体的な仕事内容が提案された。若干の修正の上で，原案が承認された。

(3) 第 27 回美術科教育学会千葉大会について

長田謙一理事が開催予定および企画について報告した。これによると開催日は３月 25 日（金），26 日（土），27 日（日）の三日間を予定しており，詳細は学会通信に掲載する予定である。

(4) 研究部関連事項

・学会誌編集に関して

研究部担当の永守基樹副代表が，学会誌投稿規定と学会誌編集・査読規定について改善を図る旨の方針を述べ，それぞれに関わる原案を提示した。理事会は基本的方向を支持し，細部につ

いては永守副代表に一任することになった。
・学会賞選考委員について
　学会賞選考委員の構成について永守が原案を示し，議論を経て，承認された。これに関連し，学会賞設立の意義について継続して広報することになった。
・学会賞先行委員長を金子一夫理事とすることが承認された。（本役職の選出方法は代表理事の指名による原案を理事会で審議し承認するものである。）

(5) 事業部関連事項

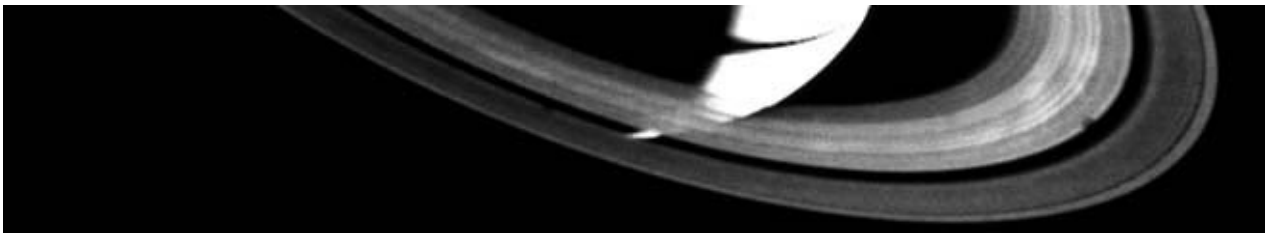
・海外との研究交流について
　事業部担当の福本謹一副代表から，2008 年 8 月に開催される予定の「第 32 回 InSEA（国際美術教育学会）世界会議 in 関西」に向けて，美術科教育学会が実質的な協力を行う方向で検討を進めている旨の報告と協力要請があった。これに対して，学会が支持し協力することが承認された。
・海外向けサイトの開設について
　福本から，従来，懸案であった海外向けサイトの開設について，実現する方針が示された。また，国内向けサイトについても今後，充実させ，当学会の広報と研究成果公開に務める方向が示された。
・英文研究誌の発刊について
　今後 2-3 年以内に英文の研究誌を発刊することをめざしているという方針を福本が述べた。

2. 学会事務センターに関する報告と検討

　学会の業務を財団法人・日本学会事務センター（以下，事務センターと略す）に委託してきたが，事務センターは平成 16 年 8 月 17 日，破産という事態に至った。この件について，柴田和豊前代表理事，宮坂元裕前副代表理事，増田副代表理事がこれまでの経緯と対応について説明と報告を行った。
　それによると，本年 7 月 3 日付の読売新聞における報道等で本問題を知って以来，本学会ではこの件について迅速かつ的確な対応をした。
　また，7 月 10 日の事務センター主催の説明会に柴田が，8 月 17 日の「（財）日本学会事務センター関係人説明会」に増田が参加した。そこでの内容を踏まえて，今後の対応を理事会で検討した。その結果，会費未納の会員諸氏には，未納分すべてについて，学会通信等で指示を掲載するまで送金を停止するよう，学会のサイトにて早急に通知することが決定された。

3. その他

東西それぞれの地区研究会について，今年度の報告を学会通信にて行うことが確認された。



第 27 回美術科教育学会 CHIBA 大会【第 1 次ご案内】

第 27 回美術科教育学会 CHIBA 大会事務局代表　長田謙一（千葉大学）

第 27 回大会を，千葉大学で開催させていただくこととなりました。

新しい世紀を迎えてから 5 年目となるこの年に本大会は開かれます。希望に満ちて開かれたはずの世紀が，実はどのような世紀であったか，私たちはそれを冷静に見つめつつ，時代の課題に向かおうとし始めていると言えるでしょう。この年はまた，戦後 50 周年の節目の年にあたります。先の大戦が何であったか，そしてその後の歴史が何であったのか，絶えることなく続く砲音を耳にしながら，私たちは今この 50 年という時間枠を全体として問い直す課題を自覚しようとしています。

学会員の日ごろの研究成果を発表し討論しあう場という本来の中心的な性格に加えて本大会は，そのような年に開かれるにふさわしい大きな視野のもとに美術教育の現代的課題を集約的に論じ合う場としての性格をも強くもとうとしています。学会外からも，美術教育にも関わる重要な理論的提起をされている方々をお招きし，美術教育の現代的諸課題について，深く議論しあう場を，3 つの「討論」として組織しようとしています。「討論Ⅰ」では，現代社会のメジャーな仕組みに対するさまざまな意味での「マイノリティー」を美術教育の課題の問題として論じる場が，「討論Ⅱ」では，戦後日本の美術・教育を，全体として見直す場が，そして「討論Ⅲ」では，美術教育の研究と討論を本学会以外の関連学会との間にも交わす広い場が，それぞれ用意されようとしています。

本学会は，千葉大学の大学院生たちの力に大きく依拠して準備を進めています。大学を越え，地域を越えて，若い研究者たちの熱い交流の場となることをも希望しています。

奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

◎研究発表申し込み

■発表時間　25 分（発表 20 分・質疑 5 分）

■申し込み方法　タイトル・発表者氏名・所属・連絡方法（住所・メイルアドレス等）をそえ、発表要旨を本文（タイトル等を除く）1200 字以内にまとめ、データ（Word および Text ＋改行）およびプリントで、下記事務局宛に送付してください。封筒表に「美術科教育学会大会研究発表申し込み」と朱書してください。（なお、大会事務局は主に Windows で作業します。）発表者は本学会会員に限ります。

■申込期間　2005 年 1 月 7 日～ 17 日　（17 日午後 5 時必着）

◎大会日程

■会　期　2005 年 3 月 25 日（金）～ 27 日（日）

■場　所　千葉大学けやき会館他

（JR 総武線西千葉下車＝東京駅から総武線快速・稲毛乗換＝約 50 分）

■日　程（予定）　3 月 25 日（金）午前—役員会　午後—研究発表　夕—学会総会

3 月 26 日（土）午前—研究発表　午後—討論Ⅰ　討論Ⅱ　夕—懇親会

3 月 27 日（日）午前—研究発表　午後—討論Ⅲ

◎連絡・問合せ先　〒 263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1‐33　千葉大学教育学部美術科
芸術学（長田）研究室内　第 27 回美術科教育学会 CHIBA 大会事務局
TEL&FAX　043-290-2658　or　043-290-3580

報告　第６回東地区会＜研究会 in 福島＞

日　時：2004 年 (平成 16 年)6 月 26 日（土）
会　場：福島大学共通講義棟 M-3 教室
テーマ「美術教育が育む確かな学力」

図画工作科や美術科の時短に伴い各地区の研究会組織数が目に見えて少なくなっています。特に中学校美術科では十数年にわたり新規採用者の減少が続いています。かつて，幅広い年齢層の研究交流が組織を活性化させてきましたが，これからは逆三角形組織の中の活性化を考える必要があります。近年注目される情意面の教育や体験的学習等について，造形活動を通して生じる人的交流や自己への視点などから育まれる美術教育による「確かな学力」についての認識が深められればと企画致しました。

メニュー：

1. 開会式：イベント世話人　宮脇理先生，美術科教育学会代表理事　橋本泰幸先生からご挨拶を頂きました。

2. **講演**『表現の楽しさを味わう「みたて」からの教育実践』後藤楯比古（神奈川県鎌倉市御成中学校長）：デリー日本人学校長時代の写真資料によるインドの子どもたちや教育事情について，横浜美術館での個展で発表された作品紹介等から「見立ての構造」と教育的意味についてご講演頂きました。

3. シンポジウム：コーディネーターの大石正文先生（福島大学附属小学校教諭）から図画工作科で育む確かな学力について，シンポジストの後藤楯比古先生から見立ての意味について，シンポジストの三浦浩喜先生（福島大学助教授）から美術教育における学力の認識について，シンポジストの五十嵐幸男先生（福島大学附属中学校教諭）から中学校美術科における確かな学力についての発表があり，つづいて会場からも貴重なご意見をいただきながら討論が進められました。

紀要原稿：

1. 宮脇　理（イベント世話人）『国民国家の現在と学力問題』—図画工作科・美術科からのフォーカスを 一
2. 橋本 泰幸（美術科教育学会代表理事）『美術教育は「確かな学力」を育てたか』
3. 後藤 楯比古『「見立て」の造形』
4. 五十嵐 幸男『中学校美術科における「確かな学力を育む指導」について 』
5. 大石 正文『図画工作科ではぐくむ確かな学力』
   ～かけがえのない子供一人一人のために
6. 三浦 浩喜『天動説の学力／地動説の学力』
7. 天形　健『美術教育の現状と学力』

なお, 若干の紀要残部あります。必要な方は福島大学天形（024-548-8225）まで連絡ください。

（報告者 : 福島大学　天形　健）

報告　第７回 東地区会〈 フォーラム in 宇都宮大学 〉

日　時 :2004 年（平成 16 年）８月 21 日
会　場 : 宇都宮大学
テーマ「アーカイブ化時代の美術教育」

2004 年 8 月 21 日 (土) に第７回東地区会を「アーカイブ化時代の美術教育」と題して，宇都宮大学において開催した。かつての「情報化」から現今の「アーカイブ化」へと日本の社会状況が進展している。それにより美術教育の授業実践や学的研究，あるいは斯界・美術教師のあり方にどのような転換が求められているかを探ることをねらいとした。なお共催は「日本の美術教科書・美術教育文献資料のアーカイブ化に関する研究」（平成 16 年度科学研究費補助金基盤研究 B ／研究代表者：山口喜雄，研究分担者：藤澤英昭・柴田和豊・天形　健・春日明夫）で，その第 1 回連続公開研究報告会を兼ねている。

【来賓挨拶】学会副代表の増田金吾・東京学芸大学教授の開会の辞，中村　清・宇都宮大学教育学部長による来賓挨拶ではじまった。

【基調報告】次に筆者が前記題目，藤澤英昭・千葉大学教授が「熊本文庫から教育を再考する」，柴田和豊・東京学芸大学教授が「多元的な視点の獲得に向けて」，天形　健・福島大学教授が「過去から過去の何を学ぶのか」，春日明夫・東京造形大学教授が「工作・工芸教育史の研究について」，穴澤秀隆・美育文化誌編集長が「熊本文庫 Research Project の概要とその目指すもの」と題する基調報告をそれぞれ行った。

【講演】続いて，斯界の「アーカイブ・アーカイブス」に関する先行研究者でもある宮脇　理・博士・元筑波大学教授が，「アーカイブス／ archives から眼差しを移す／ずらす‥　－美術教育の拡がりを納税者へ向け，そしてフォーカスを進める」と題する講演を行った。端的にいえば「アーカイブスとは公的記録，アーカイブとは複数のファイルを一つのファイルにまとめたもの」をさす。また，「歴史は，優れて高度な合理性と，そして自由の実現に向かって進化するものであり，人間が絶対的な自意識を手に入れたと即断した時点でそのプロセスは論理的な終局を迎える」というフランシス・フクヤマの考え方やそのキーワード，アーカイブスとしての学習指導要領の変遷，近年における氏による一連の学的研究などが詳述され，興味深い内容であった。

【シンポジウム】さらに，「アーカイブ化時代の美術教育」というテーマで，シンポジウムを行った。シンポジストは宮脇氏に加え，現在進行形で教育実践に取り組んでいる問題意識から宇賀神俊彦・宇都宮大学教育学部附属中学校教諭，公教育と異なる視点から岩崎　清･元こどもの城造形事業部長，モデレーターは筆者が務めた。宇賀神氏は「美術教師が学ぶ拠り所としての開かれた『アーカイブ』」を主題に，岩崎氏は独善的な世界を形成しないために「自らの営為の失敗を記す」重要性を「独断的記録論」と銘打って持論を述べた。宮脇氏は前者が述べた「中学校教員として感じる保護者の美術教育に対する評価」という現実問題，後者が強調したアーカイブ化のもつ意味と美術教育との関係，前段の講演とを関連させデジタルアーカイブ化時代における美術教育の本質に迫る論考を展開した。

【会場との交流】途中，約 70 名の参加者のなかから栃木県内の小学校教員・警察学校教員，宇都宮大学理科専攻の学部生，東京都の養護学校教員，山田一美・東京学芸大学教授などから質問・感想・意見等が寄せられ，３氏がそれぞれに対応して発言をする場面もあった。

【閉会の辞】最後に，学会誌編集委員長の永守基樹・和歌山大学教授が閉会の辞を述べた。

【懇親会】石崎和宏・宇都宮大学助教授や島崎正明・美育文化協会事務局長の挨拶で宇都宮餃子による懇親会を開会し，岡崎昭夫・筑波大学助教授やサクラクレパスの西村四郎氏や岡本康明・宇都宮美術館学芸課長ほか千葉・東京・山梨・栃木などの教員・院生やジャーナル関係者が歓談し，親睦を深めた。

【フォーラム記念誌】橋本泰幸・学会代表理事の「ごあいさつ」を巻頭に頂き，柴田和豊「多元的な視点の獲得に向けて」，春日明夫「工作・工芸教育史の研究について」などが掲載された本フォーラム記念誌『アーカイブ時代の美術教育』(64 頁) 残部が若干あります。ご希望の方は，下記までご連絡ください。〒 321-8505　宇都宮市峰町 350　宇都宮大学教育学部　山口喜雄（電話＆ FAX 028-649-5364・nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp ）

（報告者 : 宇都宮大学　山口喜雄）

報告　第６回西地区会「国際美術教育シンポジウムｉｎ美濃」

会　場：岐阜県美濃市文化会館
テーマ：美術批評力・鑑賞力の育成–美術教育と国際交流–

平成１６年８月１７日（火）に第６回西地区会を美濃市文化会館において行った。美濃市の市制５０周年記念事業として，アメリカからトム･アンダーソン教授を招聘し，８月１１日（水）～２２日（日）にかけて「国際子どもワークショップｉｎ美濃」を開催しており，その中心的なイベントである「国際美術教育シンポジウム」を美術科教育学会と岐阜県造形教育連盟の協賛で実施した。

全体会では，学会から橋本泰幸代表理事（鳴門教育大学），県の造形教育連盟から冨岡博卓会長（岐阜大学），美濃市から石川道政市長に挨拶いただいた。

午前中のシンポジウムでは，「美術批評力・鑑賞力の育成－美術教育と国際交流－」をテーマに，トム・アンダーソン氏（フロリダ州立大学），藤江充氏（愛知教育大学），鎌宮好孝氏（岐阜大学附属小学校），佐々木和哉氏（岐阜市立陽南中学校）がパネラーとしてご報告下さり，辻泰秀（岐阜大学）がコーディネーターを担当した。トム・アンダーソン氏は，反応・記述・解釈・評価といった批評の過程を示しながら，美術批評の意味や方法について論じた。藤江氏は，ＤＢＡＥをはじめとしたアメリカの美術教育の動向から日本における美術批評や鑑賞の位置づけをした。そして，鎌宮氏が小学校，佐々木氏が中学校での美術批評や鑑賞に関する実践内容を紹介した。

午後には，美濃市のアーティスト・イン・レジデンスの作家の作品をもとにして，岐阜県美術館のギャラリー解説員による対話型の「子ども鑑賞教室」を行った。市内の子ども３０名程を対象にした公開授業のかたちになった。さらに「国際交流－トム・アンダーソン教授とともに－」と題する分科会を開設し，福本謹一副代表理事（兵庫教育大学）の挨拶の後，阿部寿文氏（大阪女子短期大学）の進行で，海外の美術教育やトム・アンダーソン教授の提唱している国際的な平和壁画運動「キッズゲルニカ」などについて多様な情報交流が行われた。

地域の小都市とはいえ学会関係者と県内外の図工・美術科教員あわせて２１０名程の参加者があり，充実した研究会になったことを感謝申し上げたい。

（報告者：岐阜大学　辻　泰秀）

学会通信編集局より

学会通信編集について（1）

美術科教育学会通信のレイアウトが変わりました。見出しや本文の読みやすさに配慮するとともに，編集業務の省力化を図るために，本誌のレイアウトを変更させて頂きました。

このことに伴い，入稿していただく際のフォーマットは次のようになります。

- １行字数は全角の場合で 42 字です。
- 行数は，タイトル１行・執筆者名１行を含め，見出しに５行を取ります。
  (3 行は罫線・空白等に必要です。)
- 本文は 35 行です。

(単純計算では 本文 1470 字となりますが，実際には，改行などの必要から 1200 字が目安となります。)

あんない　第８回東地区会　＜in 東京学芸大学＞

テーマ
「美術教育を取り巻くキーワードと実践的課題」

１．趣　旨：今回のフォーラムでは，幾つかの実践紹介と美術教育を取り巻くキーワードをもとに勉強会の意味を込め，その実践的可能性と課題について討論します。
（キーワード例：社会構成主義，アフォーダンス，状況的学習論，ユビキタス，プレジャラビリティなど）

２．日　時：平成 16 年 12 月 25 日（土）午後２～５時（受付：１時 30 分）

３．会　場：東京学芸大学　20 周年記念会館（収容人数４０名）

４．内　容：実践をとおした話題提供とキーワードを起点とする討論

５．参加対象：本学会会員，教員，学生，その他関心のある者

６．申込方法：開催事務局宛てファックス又はＥメール。当日参加自由。参加は無料
（資料 500 円）

７．開催事務局　東京学芸大学 美術科教育学研究室内（山田一美）
電話 (兼)FAX　042-329-7606　Ｅメール ymdkzm@u-gakugei.ac.jp

８．プログラム

○実践を踏まえた話題提供
- 須田一成「題材『万華鏡をつくろう』から」（山形県長井市立長井北中学校）
- 林　耕史「造形エンカウンターの試み」（筑波大学附属小学校）
- 南　育子「国立西洋美術館連携授業を振り返って」
（東京都墨田区立第三寺島小学校／都図研研究局長）
- 正木賢一「展示用プロモーション映像の編集を通して」
（東京学芸大学・ビジュアルデザイン）

○キーワード解説　山田一美（東京学芸大学）

○討　論（話題提供者がパネリストとなりフロアーを交えて討論する）
司会　直江俊雄（筑波大学）

○コメント　宮脇　理　　（企画：宮脇　理・山田一美・直江俊雄）

学会通信編集局より

学会通信編集について（２）

今後の入稿につきましては ,1 頁の場合 , 本文 35 行・タイトル１行・執筆者名１行を限度として , ご執筆頂きますようお願いいたします。また ,1 行の字数・行数をオーバーなさらないようお気をつけくださいますようお願いいたします。

Ⅰ Ⅲ Ⅶ ⅰ ⅱ ⅲ などのローマ数字，㈱㈪㈶など省略文字，①②⑴⑵❶❷ 1. 2. など１語で表す括弧付き数字等，◆菱形などの機種依存文字は文字化けの原因になりますので絶対に使用しないでください。また入稿時は, テキストファイル（必須）とともに, できるだけ Word によって作成した文書（テキストファイルと同文）を付けてください。

あんない　第７回西地区研究会＜シンポジウム in 京都＞

テーマ

「これからの鑑賞教育」

—美術を身近なものにするために，学校と美術館がいま，できること—

各地で美術館の整備が進み，教育政策でも美術館等の活用に言及されています。しかし，学校と美術館の量的隔たりは大きく，単純に学校が美術館に子どもを送り込むという図式は成立しません。これからの美術教育は，学校を出てから美術とのかかわりがいかに持てるか，という視点も重要でしょう。そのために，学校と美術館はどのような関係を結んでゆけばよいのか，そこでできること，できないことは何か等，可能性や課題，鑑賞教育のあり方について探ります。

■テーマ：これからの鑑賞教育

—美術を身近なものにするために，学校と美術館がいま，できること—

■日　時：2004 年 12 月 4 日（土）13：00 受付，13：30 開始

■会　場：京都国立近代美術館 講堂（京都　市左京区岡崎円勝寺町 TEL075-761-4111）

<JR・近鉄京都駅から > 地下鉄・烏丸線（「四条」乗換）—東西線「 東山 」駅下車 徒歩 5 分

< 阪急烏丸駅･河原町駅･京阪三条駅から > 市バス⑤岩倉行「 京都会館美術館前 」下車／市バス (46) 平安神宮行「 京都会館美術館前 」下車ほか

■内　容：（敬称略）

＜実践発表＞岡山万里（（財）大原美術館）・小泉　薫（お茶の水女子大附属中）

松村一樹（京都市立伏見南浜小）

＜シンポジウム＞

岡本康明（宇都宮美術館）・平尾隆史（京都市立石田小学校長）

一條彰子（東京国立近代美術館）・足立　彰（京都教育大附属京都中）

石川　誠（コーディネーター）

■共　催：鑑賞教育研究プロジェクト（平成 15 ～ 17 年度科学研究費補助金（基盤 C）研究プロジェクト，京都国立近代美術館，美術科教育学会

■資料代：500 円

■参加申込：葉書または e-mail,FAX で。

〒 612-8522 京都市伏見区深草藤森町 1 京都教育大学 美術科教育研究室 石川誠　宛

E-mail: mishik@kyokyo-u.ac.jp　FAX：075-645-1756，TEL:075-644-8312

（企画・案内文作成：京都教育大学　石川　誠）

Books　新刊紹介 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

浜本昌宏著『輝け！子どもたち–幼年の造形表現活動』
アイ・ケイコーポレーション，2004 年，1700 円（税別）
ISBN4-87492-217-1

ふじえみつる（愛知教育大学）

＊＊

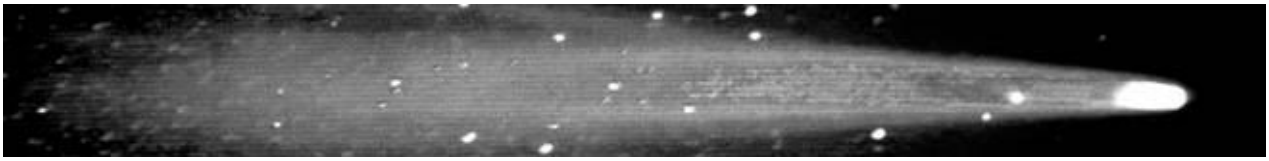
本書は，主に幼児教育者に向けての論文や講演記録など 10 編を集めたものである。それは，「Ⅰ子どもにとっての真実の表現の喜び」「Ⅱ子どもの発達と保育環境」「Ⅲ造形表現活動を拓く保育者の力」の 3 部からなる。最初の 5 点の口絵カラー作品は，本書の序曲であり，その主張を象徴的に語っている。

著者の主張は一貫している。造形表現は，子どもの生活，子どもの内面の表現である。だから，子どもの内面にかかわりなく，絵の描き方や技法だけを教えて，見栄えはよい作品ができても，子どもが豊かに育っていかなければ意味がない。しかし，技法を教えないといっても，放任するのではない。視覚だけでなく触覚や身体感覚を使った活動ができる生活環境をととのえ，表現意欲をもたせる指導が保育者に求められている。たとえば，フレネ学校では，130 色くらいの 絵の具が用意されているという。日本でも 60 色の絵の具を用意している保育園が紹介されている。

そうした主張が豊富な事例とともに，くり返される。子どもが描きながら発することば，〈つぶやき〉と作品とを対応させた事例は，子どもの内面の表現と は何かを説得的に語っている。また，著者は，子どもの表現から「事実と真実との関係」を学んだという（14 頁）。それは，13 本の足のある象を描いた子どもの「象さんの体が大きくて重そうだったから足をいっぱい描いて，支えてやった」というコメントから，「人間の認識と表現には，事実に正確に寄り添いながら本質に迫る立場と，事実をつき放して考えることで逆に本質に迫る立場があって，…両方とも大切なことだと思ってよい」（191 頁）とする見解と重なる。事実を超えた真実の世界の〈輝き〉が，幼児期の表現の輝きになっている。

本書の「あとがき」で「大事なことは，むしろ表現のプロセスや活動そのものの中で，子どもがどう豊かに育っているかということ」であるとされ，随所に出てくる〈方式〉への批判と重なる。本書を，幼児教育関係者はもちろん，自由に表現させる指導と放任とのちがいを知りたい人など，広く表現教育に関心のある人にお薦めしたい。

著者の浜本氏は，小中学校の教員，さらに大学の教員といろいろな教育現場で指導を続けて来られた。本学会の理事，そして現在は監事としても活躍されている。



学会誌の着実な発展を目指して

―学会誌編集委員会からのお知らせ―

学会誌編集委員長　永守基樹（和歌山大学）

１．学会誌第 26 号の発刊について

来春刊行予定の学会誌『美術教育学』26 号より新編集委員会が担当しております。投稿者の皆様にお礼を申し上げますとともに，発刊までのご協力をお願いいたします。学会経済逼迫を承けて，前号までは製版校正業務を内注・別注する等の経費節減策が取られて参りました。今期は経費をある程度抑えつつも作業主体を印刷会社に一本化し，投稿者の負担を軽減し迅速な発刊を目指しています。

２．学会誌リニューアルへ向けて

今期委員会の一つ目の課題として第 27 号より，学会誌リニューアルを検討中です。現行のＢ５からＡ４版への変更や注記，英文サマリーの書式や図版の扱いなども含めて，学会誌へのご意見・ご希望をお待ちします。

３．投稿・査読・編集に関する規定の整備へ向けて

学会誌は投稿論文がつくる「学会の顔」です。投稿規定や査読・編集規定は学会内外に明確に示す必要があり，その整備が委員会の二つ目の課題だと考えております。学会誌を質的に向上させ，また開かれたものとするために，明快公正な規定は不可欠なものです。投稿規定では投稿資格や学会の社会的役割が問われますし，査読・編集規定では美術教育学のディシプリンのあり方が浮上します。ご意見をお寄せ下さい。

４．実践的研究（論文）の進展へ向けて

三つ目の課題は「実践的研究（論文）」のあり方について，学会として一定の見解や指針をまとめることです（編集委員会を核とした研究部のプロジェクト）。これは本学会が教科教育学としての美術教育学の確立を掲げて発足した当初からの大きな課題であり，実践・授業研究の評価の難しさは，多くが実感されていることでしょう。ご意見を頂戴できれば幸いです。

今期編集委員　赤木里香子（岡山大），新井哲夫（群馬大），岩崎由紀夫（大阪教育大），上山浩（三重大），直江俊雄（筑波大），藤江充（愛知教育大），水島尚喜（聖心女子大），永守基樹（和歌山大）

『美術教育学』賞について

研究部担当・副代表理事　永守基樹

昨年度より設けられた表記の賞については，藤木周氏が第一回の受賞をされ，同奨励賞を谷口幹也氏と杉林英彦氏が受賞されたことは記憶に新しいところです。さて，学会誌第 25 号掲載論文を対象とする次回賞選考については，本年８月の役員会にて賞規定（含・申し合わせ）が承認され，金子一夫理事が本年度選考委員長に選任されました。今後は研究部が事務局となり金子委員長を中心に賞選考を進めます。選考委員は未定ですが以下の７名で構成されます。ア．選考委員長，イ．代表理事，ウ．学会誌編集委員長，エ．選考委員長の推薦する理事２名，オ．学会誌編集委員長の推薦する会員２名。紙面の都合で賞規定の掲載はできませんが，お問い合わせは研究部までお気軽にどうぞ。本賞が若手の方々を中心に本学会を活性化し，斯学研究と学会誌の質的向上に資するものであることを祈念しております。

美術科教育学会理事と監事の役割

理事氏名	セクション	役割	備考（協力・特記事項）
赤木里香子	研究部	学会誌編集	
新井哲夫	研究部	学会誌編集	実践的研究プロジェクト
岩崎由起夫	研究部	学会誌編集	地域研究会西の協力・会計
上山　浩	研究部	学会誌編集	サイト国内向作成
岡崎昭夫	事業部	国際交流	サイト国外向作成
金子一夫	研究部	学会賞選定委員長	実践的研究プロジェクト
花篤　実	事業部	地域研究会西代表	
柴田和豊	―	運営評議会参加等	前代表理事
直江俊雄	研究部	学会誌編集	実践的研究プロジェクト 地域研究会東の協力
仲瀬律久	事業部	国際交流	
永守基樹	研究部・副代表	学会誌編集委員長	実践的研究プロジェクト
橋本泰幸	代表理事	全体の企画・運営責任	運営評議会の招集
福本謹一	事業部・副代表	国際交流ほか	
長田謙一	総務部	学術会議対応	
藤江　充	研究部	学会誌編集	地域研究会西の協力
前村　晃	事業部	国際交流	サイト国外向作成
増田金吾	総務部・副代表	学術会議・大会対応	
水島尚喜	研究部	学会誌編集	実践的研究プロジェクト
宮坂元裕	総務部	学術会議対応	
宮脇　理	事業部	地域研究会東代表	
山木朝彦	事業部	学会通信編集	
山田一美	総務部	大会対応	学会通信支援 地域研究会東の協力

実践的研究プロジェクトについては，本通信の学会誌編集委員長からのお知らせをお読み下さい。

監事氏名			
大橋晧也	監事	（監事）	
浜本昌宏	監事	（監事）	

JIMUKYOKU

新入会員の紹介について

冒頭の学会代表理事のお知らせにもありましたが，日本学会事務センターの破産に伴い，新入会員の受付も新事務局で行うことになりました。しかしながら事務センターより会員名簿に関連する書類等が返却されましたが９月の半ば以降であり，現在学会事務局にて事務処理を進めているところです。そこで，正確を期するため，新入会員の紹介につきましては次号より行わさせていただくことにいたしました。

学会事務局といたしましても，今後各種の事務手続きを万全に遂行できますように努力しています。どうぞ了承ください。

学会事務局一同